

「木づかい体験会」への参加・運営

幼児教育学科 2回生 小川 希望

香月ゼミでは昨年度に引き続き、福井県農林水産部 県産材活用課と連携して、地元ふくいので育った木を活用した「木づかい体験会」を実施しました。「木づかい体験会」とは、ふくいの町で生まれ育った未就学の子どもたちに、同じくふくいので育った木の良さを伝えるため、また木をはじめとした自然物に遊びを通して親しんでもらうための取り組みです。今年度は、報徳幼稚園の2歳児クラスと、はぎのこども園の4・5歳児クラスを訪問し、ふくいの木を使ったスタンプ遊びを行いました。

★木づかい体験会の実施内容

スタンプ遊びの前には、昨年度の香月ゼミ生が製作した紙芝居「きこちゃんと木の妖精」を元に、内容を簡略化して作ったパネルシアターをしました。子どもたちは次々に出てくる新しいパネルに注目しながら、木について楽しく学んでくれていました。

パネルシアターを見た後は、いよいよスタンプ遊びの始まりです。子どもたちは丸、三角、四角の三種類の形に切ったある木のスタンプを使って、画用紙や大きな模造紙に思い思いの作品を作り出していました。2歳児クラスで実施した際は、一つ一つの形を丁寧に押して、画用紙に形が写るのを楽しむ子どもや、同じ形をたくさん押していく子どもの姿が見られました。また、4・5歳児クラスで実施した際は、違う形を組み合わせたりスタンプの



縁を使ったりして新しい形を作り出す子どもや、自分の手形と組み合わせて遊ぶ子どもの姿も見られました。どちらの年齢の子どもたちも、一人一人違った楽しみ方で集中して遊び込んでいました。遊びの途中でやすりをかける場面では、木が削れていく様子に驚いたり、においの変化に興味を示したりする子どもたちもあり、スタンプを押すこと以外でも楽しんでいる様子が伝わってきました。

木づかい体験会の実施を通して、子どもたちが木の良さやぬくもりなど、五感を通じて感じることができるような遊びを企画・運営する力や、身近な自然物を使った遊びの展開方法など、様々なことを学び、身に付けることができました。

